



上海事務所

NCB 海外レポート

『中国社会』 デジタル化最新事情 ⑥

～中国のスマート農業！実用化が進む農業用ドローンとは～

◇ はじめに

- ・ ここ数年、中国では、ロボットや AI、IoT など先端技術を活用したスマート農業への移行が加速するなか、農業用ドローンの実用化が進んでいます。本稿では、中国における農業用ドローンの動向について紹介します。

◇ 中国で加速する農業用ドローンの実用化

- ・ 農業用ドローンとは、農作業で使用されるドローン（無人航空機）であり、播種や農薬・肥料散布、農作物のモニタリングなどを行います。従来、手作業で行っていた農作業をドローンが担うだけでなく、各種データ分析機能も兼ね備えているため、労働負担の軽減や生産性の向上に繋がります。
- ・ 農業用ドローンの歴史は浅く、2016年に中国の大手メーカー DJI 社によって初めて商品化され、国内外に急速に普及しています。
- ・ 調査機関の 36 氬（ク）研究院が発表したレポートによると、2020年の中国における農業用ドローンの市場規模は前年比+6億円の 12.77 億元（約 255 億円）となっており、2021年以降も市場規模は右肩上がりです。



農作業を行う農業用ドローンの様子。空中から霧状の農薬を散布している。
（写真：上海縁昇自動化設備有限公司より提供）

◇ 今後の展望

- ・ 中国では、農業人口が減少の一途を辿るなか、農業用ドローンといった自動化設備への需要は更に高まっていくことが予想されます。また、中国政府および地方政府は、補助金制度の制定などによるスマート農業の普及を政策として掲げるなど、支援策を拡充して市場の発展を支えています。
- ・ 日本では、2017年に DJI 社が農業用ドローンの販売を開始して以来、販売台数は年々伸び続けています。中国と同様に農業における労働力不足や高齢化問題を抱える日本にとって、今後、農業用ドローンは欠かせない存在になるのかもしれませんが。

◇ <最近の話題> 干ばつ対策として「雨降らしドローン」を投入！？

- ・ 今年 8 月 25 日、中国気象局と四川省気象局は、四川省東南部にて大型ドローン 2 機による人工降雨作戦を実施しました。
- ・ 同省は、7 月から続く猛暑と干ばつにより、農業をはじめ様々な活動が深刻な影響を受けています。現地報道によれば、人口降雨剤（雨雲の元となる粒子）を搭載した専用ドローンで空中散布を行った結果、人工降雨に成功したとのことであり、ドローンの活用はさらに新しい段階に進んだようです。



中国中央電視台（CCTV）の報道写真。人工降雨剤を搭載とした無人航空機（ドローン）の離陸前の様子。

2022年9月16日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所